

飼料イネと粕類主体の搾乳牛用発酵 TMR 飼料調製技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農業総合研究センター 石田 元彦

2 研究期間

2005～2007 年度 (3 年間)

3 研究目的

飼料イネと粕類を主体とした発酵 TMR 飼料を生産する TMR 供給センターでは品質の安定した発酵 TMR 飼料の生産及び発酵 TMR 飼料給与に対する酪農家の不安解消が課題となっている。このため、配合原料の飼料イネと粕類の成分を混合前に正確、迅速に分析する方法を確立するとともに、TMR の発酵特性を解明することによって、成分と発酵品質の安定した発酵 TMR 飼料の調製技術を開発する。また、研究所等だけでなく酪農家においても飼養試験を実施して発酵 TMR 飼料の飼料価値を解明する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 飼料イネと粕類主体の発酵 TMR 飼料の品質安定化のための技術開発 ((独) 中央農業総合研究センター、(独) 近畿中国四国農業研究センター、(独) 畜産草地研究所、千葉県畜産総合研究センター、広島県立畜産技術センター、(株) 雪印種苗、(有) ティーエムアール鳥取、広島県酪農業協同組合)

飼料イネ、粕類及び発酵 TMR 製品を適切にサンプリングし、その成分を近赤外分析法で測定するシステムの開発及び発酵 TMR の発酵が安定するまでの貯蔵期間、品質保証期間の解明を行う。

- ② 飼料イネと粕類主体の発酵 TMR 飼料の泌乳牛用への給与効果の実証 ((独) 中央農業総合研究センター、(独) 畜産草地研究所、千葉県畜産総合研究センター、広島県立畜産技術センター、(株) 雪印種苗、(有) ティーエムアール鳥取、広島県酪農業協同組合) 研究機関だけでなく酪農家においても飼養試験を実施して発酵 TMR 飼料の飼料価値を解明する。

5 目標とする成果

飼料イネと粕類という自給飼料を活用した発酵 TMR 飼料の供給による牛乳生産システムが確立される。これにより、飼料自給率の向上、資源循環型農業の確立、雇用創出と関連産業の振興が期待される。

飼料イネと粕類主体の搾乳牛用発酵TMR飼料調製技術の開発

